

山と人のシンポジウム

これらの遺伝的な多様性も知っておく必要があります。

コーヒーも山岳起源です。エチオピアの標高 4000 m のカファ雲霧林には 5000 種ものコーヒー原種があります。この地域のコーヒー豆はドイツに高値で輸出される重要な商品になっています。このように、地域の生物多様性は経済発展にも役立っています。

世界の人口は増加しつつあり、食糧問題に直面しています。これは世界の主要な課題の一つです。16~17 世紀にジャガイモが南米アンデスから世界に広がった時に世界の人口が急増しました。キノワ（穀類）は、20 年前は健康食品としてしか扱われていませんでしたが、悪い土壌でも育つ有用な穀物として、今ではスーパーでも売られています。

● 山は崇高で資源が多彩

山岳は崇拜の対象にもなってきました。カイラス山（チベット高原西部の独立峰）にはチベットの 12 億人が訪れています。その他にもペルーのマチュピチュ遺跡や、日本の白山のように世界各地には神聖な山があり、その多くが観光地にもなっています。

多くの山域は観光地としても重要で、ヨーロッパアルプスは 10% が観光に関わっています。中国人は観光好きで今や世界各地の観光地に押し寄せています。しかし、観光地には流行があるため、長期的視野に立った持続可能な利用を考える必要があります。

グローバリゼーションが山岳地域にも押し寄せています。山には噴火・造山運動で多くの鉱物、金属、宝石など経済的価値の高い資源が存在します。鉱物需要は拡大しており、鉱山開発のための掘削は山に大きなプレッシャーを与えます。2000 年以上前から地中海地域では採掘が行われています。また、山域は不法な植物・麻薬を育てる場所ともなっています。マリファナ、コカイン、アヘンの他、オピウム（麻薬）も世界各地に影響を与えています。森林破壊も進行中です。カナダのブリティッシュコロンビア州からはアジア向けの材木が多く輸出されていますが、サケ等が棲む重要な河川が脅かされています。これら鉱物、不法な麻薬、森林伐採などは、経済のグローバリゼーションと深く関わっています。

● 山に教わる気候変動影響

山は私たちに気候変動の影響を教えてくれます。20 世紀初期にスイスの植物学者が調査したアルプス山頂の植生を 80 年後に別の研究者が調査したところ、種数が有意に増加し、植物が標高のより高い場所へ移動していること、そしてこの変化が気温と関係していることを見いだしました。その他にも、世界各地での氷河の大きな後退、コスタリカ等でのカエルの絶滅等、気候変動の影響は世界の山域で明らかになってきています。

気候変動は悪いことばかりではありません。雪の多い地域では、雪害から解放され暮らしやすくなります。雪が必要な場合には、人工的に雪を造ることができます。夏の暑い時には、多くの人が海よりも山に向かうでしょう。山の観光にとってはチャンスです。

● 「国際山の日 12/11」に集いましょう

「持続可能な開発目標SDGs」が 2015 年に国連で採択されました。これら 17 の目標は相互に関わっています。山域を活性化するには特に 17 番目「パートナーシップ」が重要です。国内外で連携し、情報をシェアすることが大切です。我々地球人はみな山の民です。そこで 2002 年に、毎年 12 月 11 日を国際山の日と決めました。皆で集いましょう。

（文責：陸 齊）

参考) 『山岳』 マーティン・プライス 著／渡辺 悌二・上野 健一 訳、丸善出版 2017 年



白馬岳と登山者